

所報 研究所だより 教育・しまんと

令和5年度
NO. 6

発行 四万十市教育研究所

四万十市国見 222 番地
Tel/Fax (0880) 37-2817
ふれあい学級(0880) 31-1130

★「四万十市複式教育研究大会」 (三原集会) から

10月25日(水)に、「令和5年度 四万十市複式教育研究大会」(三原集会)が三原小学校で開催されました。

当日は、市内の複式校8校の教職員が一堂に会し、「自ら考え、表現できる児童の育成 ～個別最適な学びと、協働的な学びを充実させた授業づくり～」という研究主題のもと、全学年・学級の算数科の授業公開と「主体的な学びに向かう複式の授業づくり ～全へき大会を経て～」という演題で、宿毛市立咸陽小学校の田村いづみ教頭先生のご講演に耳を傾けました。

会の名称は、四万十市複式教育となっていますが、2年前に本研究大会の会場校であった大用小学校の池上校長先生(当時の複式研会長)から、「様々な研修会や行事が「中央区」という位置付けの中で三原小学校も一緒に活動してきています。

今後、三原小学校も複式学級が編成されることに鑑み、複式研でも共に学ぶ機会を設定し、組織の一員として活動していきたい。」

というお話があり、規約の一部を見直す中で、本年度の三原集会が決定した経緯があります。

それでは、当日の授業の様子や講演会の模様を写真で振り返りたいと思います。



【 三原小で唯一複式学級の1・2年生の授業風景。1年生3名、2年生5名で、それぞれ「引き算」「新しい計算」という学習に取り組みました。 】



【 ひまわり学級(1年生情緒)での授業風景。既習のひき算とは異なり、繰り下がりのある計算で、答えの十の位に0を書いたことに、子どもさんの気づきや一生懸命の思考に、思わず感嘆の声を上げた先生の姿が印象的でした。】



【 3年生の授業。ものさしで測らずに、まるい形を調べ、比べる方法を考える学習。コンパスを使う等して一生懸命考えていました。 】



【 「分数のたし算、ひき算を広げよう」という5年生の学習内容でした。隣同士で自分の考えを発表し合い、共に学び合う光景が見られました。 】



【 計算のやくそくを調べる4年生の学習。タブレットを文房具のひとつとして操作し、課題解決に集中して取り組んでいました。 】



【 6年生は「比例の関係を詳しく調べよう」という学習課題でした。既習の学習を生かし、学習リーダーを活用して授業を進めていく姿が見られました。 】



【 三原小学校の嵐校長先生のご挨拶をいただき、全体会がスタートしました。会場には、三原村の武内教育長さんも見えられていました。本研究大会を開催するにあたり、何かとご支援ご協力をいただきありがとうございました。 】



【 田村教頭先生からは、平成29年度に中筋小学校において、研究主任の立場で全国へき地教育研究大会に取り組んだ経緯を、当時を振り返りながらお話ししていただきました。】

取り組んできた成果として、いくつか挙げていただきましたが、その中でも大きかったことは、全教職員が、一つの目標に向かってベクトルを合わせ、単式学級・複式学級関係なく、すべての子ども達の学びを保障してきたことにより、組織力の向上が図れたこと。

そして、その結果として、子ども達の学力の定着と向上に結び付いたこと等を話していただきました。

当時、複式教育の中でよく言われていた「一人学び」や「とも学び」の充実、「学習リーダーの活用」等々は、時が流れてもバトンは確実に受け継がれ、現在も各学校で取り組まれていることを、本日の三原集會でも再認識できたのではないかと思います。】



【 ご講演の前、基調提案として、三原小学校の今堀友雅研究主任から報告がありました。三原小学校が取り組んでいる個別最適な学びと協働的な学びを具体的な学習風景や学習の足跡で示すと共に、全教職員で共有している、三原小スタンダードの紹介がありました。】

さらに、三原小の複式・少人数教育として、「ICTを活用することで、個に応じた学びや友達との学びを進めやすく！」や「スタンダードに基づき、子どもたち自身で学習を進める！」といったねらいについて情報発信していただきました。】



【 閉会にあたって、来年度の複式教育研究大会の会場校である下田小学校の上田壮校長先生より、ユーモアを交えながら締めくくりのご挨拶をいただき、盛会のうちに研究大会を終えることができました。 】

◆ 本研究大会を振り返って

秋の深まりを感じる季節、紅葉も色づき始めた三原の地で、有意義な研修の機会を得ることができました。三原小学校の嵐校長先生をはじめ諸先生方、そして武内教育長様、本当にありがとうございました。参加された先生方、お疲れさまでした。